

「田んぼダム」に取り組みませんか？



「田んぼダム」とは？

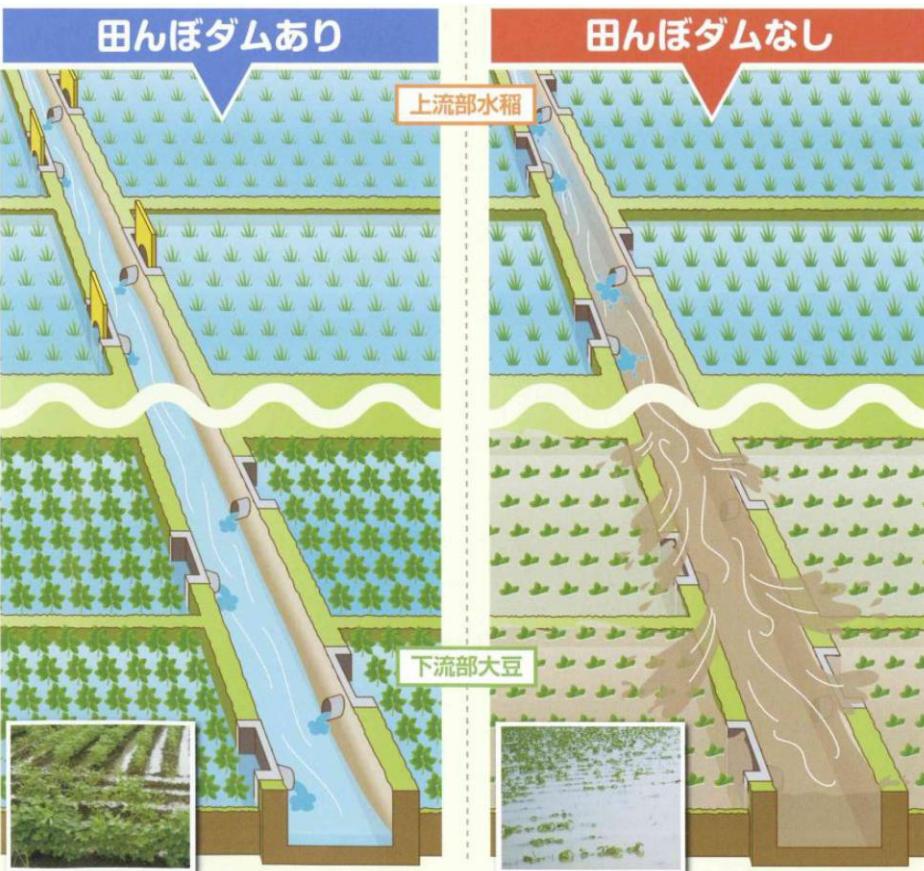
田んぼがもともと持っている「水を貯める機能」を有効に利用し、大雨が降った時に田んぼに一時的に水を貯めることで、洪水被害を軽減しようとする取組です。

①田んぼに降った雨を、排水口を狭くしてゆっくり排水することで、豪雨時に雨水が一時的に田んぼ内に貯留され、洪水被害を軽減します。

②完全に排水を止めるのではなく、排水量を減らし、一時的に田んぼに水を貯留します。

③「安価」で「直ぐ」に実施出来る治水手段です。

④上流部の水田からの排水を抑制することで、下流部にある大豆などの転作水田が浸水被害を受ける可能性を低減する効果があります。



実施例



落水マスに調整板を設置



※マスのない田んぼでも実施可能です

○ 10cmの貯水により、10haで1万トンの水を貯留できます。

500haでは50万トンの貯留が可能。

50万トン=野球のグラウンドを水で満たした場合、高さ約43m分の水量



行政からの支援について

「多面的機能支払交付金」事業が活用できます。

- 農地維持支払交付金
- 資源向上支払交付金



◎田んぼダム加算金

田んぼダム10aにつき+300円

※資源向上交付対象面積のうち5割以上で取組む必要があります。

◎加算措置の例

組織Aの農用地	
資源向上交付対象面積	50ha
水田面積	30ha
転作面積	20ha



田んぼダムを
28haで実施
(資源向上交付対象
面積の5割以上)

●加算措置

資源向上交付対象面積の50ha分

加算金額: 150,000円

●実施費用

(水田1haに4枚の調整板を使用。
1枚のコンバネから10枚の調整板を作成した場合)

コンバネ必要数→12枚 【1枚 1,800円(ウレタン塗装)】

実施費用: 21,600円+コンバネ加工費用(日当)

※広域活動組織の場合、構成集落毎に面積を算出します。

加算金を受ける場合の流れ

～R3. 10月頃まで

翌年度田んぼダム
計画面積の算定

R3. 10・11月

田んぼダム実施面積
等の計画を市と協議

R4.4月～

田んぼダムの
本格実施

田んぼダムに関するよくある質問

質問	回答
調整板はいつ設置するの？	代掻きや田植え時に一時的に外す場合もありますが、冬も含め通年で設置します。
田んぼの畔が崩れたりしないの？	通常の水管理でも畔の高さまで水が上がる場合があるため、調整板による影響はありません。
専用の落水枠はあるの？	どんな枠でもOK、枠がなくても実施できます。

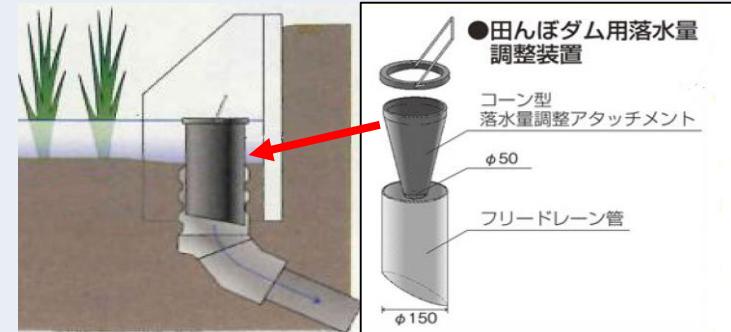
立板方式



落し蓋方式



コーン式



お問合せ先 大仙市役所(0187-63-1111)

◎田んぼダムの取り組みに関するご相談: 総合防災課(内線386)

◎多面的機能支払交付金に関するご相談: 農林整備課(内線245)